

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

声優の少年の懸命の演技(練習)が
終わりました。監督はやさしい声で、
「いいよ、いいよ。その調子。で、い
ちばん最後の、もう最後だ」という
ところ。もう少し低い声で、ね。さあ
もう一度やってみよう」と語りかける。
別室の少年が「ハイ、分りました」と
答え、また朗読がはじまる。ビデオ
『地球の風車——ヒロシマ・ナガサキ
に学ぶ——』の最終編集のスタジオで
の一駒です。少年少女二人の声優、大
人のナレーターの声、音楽と絵を合わ
せ、仕上げていくのです。

二人の声優にとって、五〇年の遠い昔
の、想像を絶するヒロシマ・ナガサキ
の、子どもの被爆者の思いをシナリオ
にある短い言葉で伝えるという仕事
がどんなにむづかしいことか、朝からス
タジオで編集作業に立合っていた私に

焼けただれたからだだ 川に逃げま
した...
岸から炎が吹きつけるたびに 水の中
にもぐりました...
もう最後だ と思いましたが...

は痛いほど分りました。
ふと、幼い時長崎で被爆した少年の、
詩のような叫びの声を思い出しました
(永井隆編『原子雲の下に生きて』一
九四九年)。

ビデオ『地球の風車』の製作を通して

森田 俊男

み、また先頭にしての反核・平和の不
屈の運動こそが、やがて、世界各国のそ
れぞれ独自の運動を生み、それらが大き
く結びあい、核兵器廃絶の国際世論を生
み、国際司法裁判所を人道の理念に立た
せ、核兵器保有国の将軍たちに良心をと
りもどさせ、いま各国の子どもたちに
「核兵器は、やめませー!」の叫びを
引き継がせている——この歴史の担い
手の自覚を上げますものでしょう。
ところで、その叫びをもっと多彩な、
力強いものにし、広げていくためには、
日本はもとより世界の国々で「げんし
ばくだんは ひどいもの」であり、い
かに「痛いもの」であるか、をじっく
りと心に刻む学習を上げまし、支えて
やらなくてはなりません。いまま少な
からぬ子らが、学校での勉強を投げ出し、
お互いにいたわりあう心、他者の悲し
みとよるこびを共にする感情をみうし
なうという心構え事態に直面している
——そのことをふまえ、その子らの心
をこそゆり動かし、「わがこと」とし
てヒロシマ・ナガサキをうけとめるよう
はげます教育実践の開拓が切に求めら
れている。自らに課し、努力しなけれ
ば、と思う次第です(八月八日記)。
(平和・国際教育研究会代表)

ビデオ『地球の風車』は「地球の風車制
作委員会」制作。制作協力・連絡は全日本
教職員組合。十二月十日発売予定。

エンジン引き揚げから一周年 鎮魂の地に「平和記念碑」

杉 末廣

ビキニ環礁でのアメリカの水爆
実験で被ばくした遠洋まぐろ漁船
「第五福竜丸」のエンジンが、別
の貨物船で使われ、その貨物船が
一九六八年に三重県南牟婁郡御浜
町の熊野灘で座礁して沈没した。
忘れられかけていたその悲劇の
記憶とともに、五年間の調査を重
ねて、昨年十一月二十日、エンジ
ンを発見、十二月二日、御浜小石
で有名な七里浜海岸沖で、歴史の
証人、ビキニの生き証人、被ばく
の証人現れると報道されて引き揚
げてから一年がたった。
発見した翌日、一日も早く引き
揚げにくるから待っていてくれ、核
廃絶運動のシンボルとして、東京・
夢の島の「第五福竜丸」の船体の
もとに戻すからと誓って、酒で清
めよと妻からリュックに入れても
らった酒をエンジンの沈んでいる
方向へ注いだ。それは、地酒の
「梅一輪」であった。妻は、「お
父さん、梅の花が散っても実がな
るよ」とエンジンとともにきつ
つとよいことが起こると、縁起をか
つぎ、いままでの労をねぎらって

くれた。
それから一年、十二月二日を迎
えたが、当日の引き揚げの地で一
周年の記念の集いがもたれ、私も
出席した。
酒造元の協力で「梅一輪」をい
ただき、現地で引き揚げに協力し
た関係者、町議、町職員が集い、
沖に向けて酒を注いだ。
その中には、三重県多気郡大台
町立の大台中学校の教諭二人の姿
もあった。
同中学校では、来春四月の修学
旅行で第五福竜丸展示館を見学す
る予定とのことだが、その予備学
習と、平和学習の教材にしたいと
集いの模様をビデオに収めていた。
「その時エンジンは展示館のそば
に到着していますか」と問われ、
胸を張って「大丈夫」といったの
だが、「それなら安心です」と同
校からは、来春二月に全校生徒に
エンジン引き揚げについての講演
をしてほしいと頼まれ、引き受け
てしまった。
当日の地元集いでは、十二月
二日を意義のある記念日にしよう

と、出席された町議員、町職員に
たいして、引き揚げの地として
「平和記念碑」の建立を要請、新
年度予算に計上する考えのあるこ
とが約束された。その町議は、こ
の熊野灘から世界に向けて核廃絶
を訴える最前線として、黙っ
ているわけにはいかないと意気投
合、共に平安であるようにと心の
深呼吸をしたのであった。
それにしても、引き揚げの当日
も、今回の一周年記念日の集いに
も、原水協や原水禁、民主団体の
方が一人も参加されていないのは
残念であり、報道関係者も不思議
だといっていた。
第五福竜丸の建造、久保山愛吉
さんの東大病院の主治医の出身地、
引き揚げも和歌山、三拍子揃った
非核発進基地とこれから位置付け
ていきたい。

調査期間中からの約束もあり、
東京の都民運動もさることながら、
引き揚げたエンジンを直接展示館
に贈りたい気持ちはいまま変わら
ない。
当初の目的、約束であれば、年
間二十万〜二十五万人の見学者に
一日も早くエンジンを見ていただ
きたい。都民運動の方々ほどのよ
うに方向を描いておられるのだろ
うか。
現物が東京に無くて、カタログ
商法的では、東京都に対しての真
意は伝わりにくい。東京が必要と
しているのならば、一日も早くエ
ンジン運びたい、多くの方に見
ていただきながら、永久保存の方
向をさぐっていくよう東京都の方
に要請できないものか。
都民運動団体ばかりで行動し、
経過の報告だけと和歌山が聞くとい
うのでなく、運動を進めてきた和
歌山県民運動と一体となり、和歌
山も会議にも参加していくことが
必要ではなからうか。地元の熱意
やさまざまな動き、エピソード等
をとりいれていく都民運動であっ
てほしい。
無いからできた、思ったことに
は不可能が無いとの気持ちは今も
変わらない。
唄の文句ではないが、「ぼくの
気持ちを知らなからどしてどし
てどうしてそんなに／＼はやく行こ
うよ、あの娘の住んでる東京へ」
(守屋浩・僕はないちっち)。
この唄をカラオケで唄いながら
涙を流すのが毎日。スナックでも
有名になった。
支援いただいているみなさん。
第五福竜丸のエンジンを「一日も
早く」東京・夢の島へ!
(海南市市民)

名護にへり基地はいらない 市民投票の持つ重さ

野口 裕子

沖縄は北部山原(ヤンバル)の、今焦点の名護市民投票についてお伝えします。

二年前の秋、沖縄は大田知事を先頭に、米軍基地の過重負担と国内法が適当とれない「地位協定」の見直しを求めて起ち上がりました。沖縄は戦後二十七年間の米軍政の下、そして「復帰」してなお二十三年の間、絶えない事件・事故に一体幾度抗議を重ねてきたことでしょうか。日本政府に対する異議申し立てには、そうした五十年間の思いが込められています。

その願いに応えて検討したとされる日米両政府は、ちょうど一年前SACO(日米特別行動委)報告を出しました。それによると合計十一施設(基地)の返還の内、何と八施設は県内移設条件付きです。目玉とされる「普天間飛行場全面返還」も例にもれず、その代

替地を名護市東海岸辺野古に求めています。

そこはすでに一九六五年から七十年にかけて関東から米軍を移す計画の下に移設されたキャンプ・シュワブと辺野古弾薬庫があります。そのシュワブ沖にさらに基地をもつてこようとは、しかもヘリポートと呼ばれる海上基地は、「普天間」そのままではありませぬ。老朽化した飛行場と軍用ヘリを一新して、海兵隊の機能を飛躍的に強めたものであると予想されます。

昨年の夏から秋にかけ市議会と市民大会は三度の移設反対決議を挙げてきましたが、政府からの様な力が働いたのか今年に入り市と与党市議はこれらを反古同然に事前調査を受け入れました。他方、県もそれに続くボーリング調査を行政事務的に許可し、事実上容認

する形となっています。

このような中でへりポート基地に反対する市民が中心となり市民投票条例推進協議会が結成されました。命にかかわる大切なことは皆で決めようとの呼びかけに、有権者三万八千の半数に近い一万七千余の署名が寄せられました。当初は否決を決め込んでいた与党議員も多数の民意を無視できないと見るや、条例案の投票方法に修正を加え(賛成、反対の項目に各々環境対策や経済効果が期待できるので賛成、できないので反対を加え四択とした)成立させました。ねじ曲げられたとは言え具体的な基地建設の是非を問う市民投票を生み出したことの意味は増々大きくなっています。

十二月二十一日の投票に向けて政府はその権力をフルに動員して建設への同意を取り付けようとしています。大臣を送り込んで陳情を受けさせ、北部の振興は政府が目を向けている今が千載一遇のチャンスとばかり地元勢力を誘致派に結束しようと画策しています。市長も与党市議も根拠のない数十億に上る基地交付金に踊らされ、今は振興策のために賛成票をかき集

めるといった本末転倒の事態がくり広げられています。

今、名護市民は昨年の県民投票とは違い県や市の応援もなく素手で基地の押し付けに立ち向かっています。十一月五日から開始された建設基本案の説明会では、その内容の杜撰さが暴露され住民の基本的な質問にさえ答えられない施設局の姿が明らかになりました。数カ月の調査でシュワブ沖が適地であると断定する政府のごう慢さは許されるものではありません。

これ以上の基地を造らせない為に今、全島が名護市民支援に立ち上がっています。これまで男の陰にいた女たちが前面に出て力強く活動を展開しています。その一つに地元二紙に意見広告を載せる運動が始まっています(沖縄タイムス・琉球新報に十二月十九日(金)掲載)。「本土」からもへり基地NO!の声を目に見える形で表わしているようではありませんか!

(沖縄・二坪反戦地土会 龍丸乗組員)



「マグロ塚」のその後

大石 又七

三千二百万人という、あらゆる立場の日本人が核実験反対、核兵器反対とって反対署名をした四三年前のあのときのことを思い浮かべながら、あのときと今は何が変わったのだろうか考えます。核について考えれば、くらべものにならない数十倍の危険が私たちをとりまいてしまいました。

すべてが悪いとは言えないのでしようが、ボタン一つで地中海や海の中から核弾頭が飛びだし、いつでも相手を大量に殺すことができます。クリーンエネルギーで、豊の象徴のように言われ、造り続けられている原子力発電所も、出てくる放射性廃棄物はたまる一方、

第五福竜丸

平野 昌代

南海の修羅くぐり来し鮪船 船板朽ちて龍骨ゆがむ
反射鏡に置かれし小瓶の白き粉 被曝デッキの「死の灰」とあり
無線長逝かれし被曝の船館 「平和」の打電送りてやまず
凍て錆びし対のいかりは被曝せし 船の墓標か片へに据えて
浜風に揺るる薄氷ひび走り 曝船の館に夕闇迫る

中野区の婦人から送られてきた多くの署名と募金に添えられていた。一九九三年十二月、都教職員会の夢の島俳句吟行で詠んだ短歌という。

せん。このまま、すべてが膨脹し続けたら…

二一世紀は、立ち止まり、振り返り、安全を確かめる世紀ではないでしょうか。特に核問題を見つめ直す必要があると思います。当時、大きく盛り上がった核兵器反対の声も、原子力の平和利用という言葉で覆いかくし、指導者たちは両方を手にしました。第五福竜丸ビキニ事件はその大きな問題を表面化させ、人類の岐路を暗示しました。

放射能まぐるや放射能雨で日本中がパニックになったこの事件も、今ではすっかり忘れさられて「放射能まぐるって何のこと」とその説明に大変な時代です。しかし、まだ希望もあります。学校などで子供たちに事件の内容を丁寧に話すと、現在のことをちゃんと理解します。今度のまぐる塚のこと、
「あの広い太平洋が放射能に汚染されてしまい、捕ってきたおいしいまぐろが四五七トンも海や土の中に捨てられて日本中がパニックになったんだよ」と言うと、みんなびくびくりします。そして、「みんなまぐるが好きかい」と聞くと「大好き」と一斉に手を上げ、

子供たちはそんなところから放射能の怖さを実感するようです。

まぐる塚のことは、新聞記事になって全国に伝えられたこともあって、毎日のように励ましの手紙と一緒に署名や募金を送られてきます。なぜか最近学校から多く、都内近県はもちろん、大阪方面からもくるようになりました。「内容を理解しないで署名や募金をされても、それは意味がないことだ」と言って校長先生に了解を得て学習しながら活動していると聞いた神奈川学園女子校の生徒たちからはその後、四三七人の署名と沢山の募金が、そして奈良県立ろう学校の生徒からは、一円玉十円玉などが九・五キロ募金箱に入れて送られてきました。大人と違って、かけひきのない素直な気持ちで平和を真面目に考えるこうした子供たちの思いを、青島都知事にも知っていたら、平和への道しるべとして残すまぐる塚に反対しないで、と私も願っています。

一九九七年一月九日現在、署名・四、八五五人、募金・一、四二八、七三三円です。

(元第五福竜丸乗組員)